

Surveys on the Prevalence of Pediatric Bronchial Asthma in Japan: A Comparison between the 1982, 1992, and 2002 Surveys Conducted in the Same Region Using the Same Methodology.

出典 Allergology International (1323-8930) 58 巻 1 号 Page37-53 (2009. 03)
(<http://search.jamas.or.jp/link/ui/2009251263>)

著者 Nishima S 他

調査地域 福岡県、長崎県、大分県、宮崎県、熊本県、佐賀県、鹿児島県
山口県、兵庫県、香川県、沖縄県

調査時期 1982 年、1992 年、2002 年

調査対象 6～12 歳（小学生）

依頼数 2002 年：37036 人

回収数（率） 1982 年：55388 人（男子：28036 人、女子：27352 人）

1992 年：45674 人（男子：23052 人、女子：22622 人）

2002 年：35582 人（男子：17951 人、女子：17631 人、回収率：96.1%）

診断方法 ATS-DLD

有症率 1982 年：記載なし

1992 年：16.0%

2002 年：20.5%

調査概要 西日本の小学生の 1982 年、1992 年、2002 年の気管支喘息有症率を調査し
論文。同一方法で調査を行い、気管支喘息の有症率はこの 20 年で増加し、
男子の有症率は女子の 1.5 倍ほど高かった。